

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	－	－	－
		商店街（代表者）	単価の動き	・少し一服気味であるが、単価の高い商品の動きが良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・若干だが販売量が増えている。しかし、景気回復の実感というまでは至らず、雰囲気という感じを脱していない。これまでも北海道は本州に比べて景気回復が遅れて来るため、今回の景気回復が本物であるならば、実感できるのは夏の終わりである。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が気温上昇にともない大きく伸びている。また、催事場など、季節商材以外の売上が増加している。さらに、複数の商材を購入する客も増加している。美術品購入も前年を上回ってきた。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温の上昇とともに、顧客の消費に対する意欲が高まっている。来客数の増加に加えて、買上客数も堅調に推移しており、春・夏物衣料が本格的に動き出す来月に向けて、さらに購買意欲が高まっていく。
		スーパー（店長）	単価の動き	・夏物関連の消費動向は月末の気温上昇で一気に動いたが、天候不順の影響から、月全体を通しては前年を下回っている。ただし、前月同様に高単価商品の動きが依然活発であり、今後もこの傾向は持続する。食品は、品ぞろえの充実や商品単価の上昇もあり、気温に左右されずに来客数、売上ともに前年を上回っている。気温が上がれば、こうした動きはさらに顕著になる。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・今年は春が遅く、気温の低い状況が続いていたが、今月後半に入り最高気温が30度を超えるなど、一般的な春がないまま、すぐに夏になりそうな状況であった。客単価は前年比99.9%と、この数か月変わりなく前年並みを維持している。来客数も前年比99.5%となっており、悪かった4月よりも2.5%程度上昇している。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・4月以降、来客数が前年を上回っている。購入が集中している商品は特にないが、全体的に売上が伸びている。
		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・やっとな寒い春が終わりそうだ。高齢化の象徴かもしれないが、気温の上昇と天候の回復で来客数がかなり上向いてきている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチタイムは団体客と子供連れの家族が多く、満席の状態である。ディナータイムは年配のグループ、夫婦での観光客が目立ち、好調である。今月の売上は前年を15%上回っている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣のアジアからの観光目的の旅行者数は、ほぼ前年並みに回復している。また、5月は国内の大型イベント、学会があったことで国内客も好調である。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客単価が少し上がっている。価格の高い商品への問い合わせも多い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社に対抗する夏の新商品の販売量が想定を超えて好調である。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・当社観光施設の利用客は、26日現在で前年比120%と好調であるが、営業部門全体でみた売上は前年比110%にとどまっている。人は動いているが、お金の使いどころを絞っており、積極的な購買や飲食には結び付いていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・低温、長雨から天候が回復すると同時に来客数が増加し、活性化している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して、旅客、車両ともに輸送量が増加している。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・分譲マンションの価格はここ数年で最も安定している。分譲マンションの供給が絞られていることで、需要が供給を上回っている状態が続いており、客からの値引き要請がないことが理由として挙げられる。

変わらない

商店街（代表者）	それ以外	・夏物商戦の最も重要な月に入る時期だが、全国的にかなりの気温差がみられる。北海道はかなり気温の低い日が続いており、夏物の始動が遅れているが、一方関東方面は気温が高くてニットの動きが激減するなど、非常に天候に左右されている。
商店街（代表者）	お客様の様子	・気持ち的には景気は良いと感じているが、実質的には中身がともなっていないように感じている。
商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、一般の来街者数は連休明け以降も目立って増加していない。また、他地域では台湾及びタイ方面からの観光客が増加しているとの情報もあるが、当地域では台湾からの観光客も含め、確認できる限りにおいて買物客の中に外国人が占める割合は少ない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数、売上ともに前年よりも数字を落としている。
一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・今月も経済の動きというよりも天候の悪さが大きく影響している。当社は昆布専門店ということもあり、固定客が多いが、売上はようやく東日本大震災以前の水準に戻ってきた。
一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月は半月ばまで気温が上がらず、寒い日が続いていたため、客が外出をして飲食するには適さない気候であったが、後半に入って気温が上昇するとともに少し良くなってきた。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・まとめ買いが非常に少なくなっている。客は必要な分だけを吟味して買う傾向にある。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温が上昇傾向にあり、期待感はあるものの、中旬までの低温の影響による不振を取り戻すほどの力強さに欠ける。ただし、天候要因に左右されにくい食品は好調が持続している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量は4月より若干の上乗せがあったものの、前年比93%と来客数の落ち込みもあり、低迷した状態が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・4月は調子が良かったが、5月に入りゴールデンウィークが寒かったため、本来ならば客が集まる時期になかなか客が集まらなかった。天候にかなり左右されている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・例年にない低温続きで行楽商材の動きが鈍い。一方で、低価格競争も厳しさを増しており、巷で言われるような政策効果の実感はあまりない。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・これと違って良くなる条件が見当たらない。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・道内の雇用状況、給与、年収が改善されていない。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・春が遅く、5月なのに雪が降り、桜の咲く時期も遅れている。5月末にようやく暖かくなり、客単価も上がってきたものの、関連商品の販売がともなわなかった。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・5月前半は気温が上がらず、来客数が前年より減っている。ゴールデンウィーク期間中や直後も雪が降り、白物家電売場を中心に来客数が減っている。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・寒い春が続いていることの影響を受け、エアコンを中心とした夏物家電の販売が非常に悪く、家電全体の足を引っ張っている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年初は来客数、販売量に勢いがあったが、ここ最近では寒さの影響でもないだろうが、来客数、販売量とも減少している。中古車は高額車が売れている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・低燃費車を中心に動いている。今月は法人の受注も若干だが良くなっている。
乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・3か月程前から段々と良くなっているが、その3か月前と比べて今月はそこまで特に良かったというわけでもない。周りをみても車の売行きは大体横並びで変わらない。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車を投入した一部の販売会社を除けば、受注量、売上とも大きな変化はない。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・良くも悪くもなっていない。気温が低めだったため、当地域の農業に影響が生じれば、景気が悪くなる。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・例年はゴールデンウィーク終了後に来客数が落ち込むところだが、今年はゴールデンウィーク期間中が悪く、終了後の来客数が例年よりも多かった。ただし、ゴールデンウィーク期間中が天気恵まれなかったことの反動なのか、景気の高揚感によるものなのかは判断が付かない。集客アップは売上面では有り難いが、輸入食品の仕入価格が高騰しており、料理やバイキングの値段に付加しにくいため、収支面では苦しい。マンションや住宅の新築や改築が目につくなど、住宅関連については消費税増税前の特需が生じているようだが、飲食店への影響はよく分からない。 	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・報道などでは好景気で株価上昇などの記事が毎日のようにみられるが、現実には宿泊客やレストランの来客数が減少している。円安により材料費も高騰している。 	
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者はここ2～3か月急伸しているが、国内旅行者が伸びず、全体として3か月前とほとんど変わらない。むしろ外国人観光客の消費単価が低くなっていることで売上は低迷している。 	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べて海外旅行が低調で、国内旅行が幾分良くなっている。全体としては微減となっている。 	
	タクシー運転手	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・今月はゴールデンウィークがあるため、期待していた。しかし、観光客の入込はみられたが、天候が悪かったため、地元客の出が悪かった。3か月前と比較すると約1%の落ち込みであったことから、全体としては変わらない。 	
	タクシー運転手	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・注文数、問い合わせ件数とも、ほぼ前年並みである。 	
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・株価が順調に回復して円安も進んできたが、ここに来て株価が乱高下していることで、客が不安なムードになっている。 	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順が続き、観光客のキャンセルなどでホテルや飲食関連が不調である。また、衣料品関連も初夏物の動きが鈍化している。 	
	百貨店(売場主任)	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィーク期間中のイベントは非常に集客があったが、買上にはつながらなかった。上旬及び中旬は寒さの影響で羽織物、ジャケットの動きが前年の2割増しであったが、ニット、カットソー等の単品の動きが前年の8割台であり、非常に気温に左右された。 	
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィーク期間中の来客数は前年比で1割の減少となった。低温が続いたため、飲料水やビールが大きく減少しており、行楽需要や花見需要も取り込めなかった。 	
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・天候が良くなっても、来客数が回復してこない。 	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・オホーツク管内はゴールデンウィークにも降雪があるなど、降雨と寒い日が続いていた。畑地が乾かないため、ビートやたまねぎなどの作物の作付けも遅れており、全体的に停滞感がある。 	
	タクシー運転手	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・5月はゴールデンウィークのような大型連休があるため、タクシーの売上が1年を通して悪い月である。今年の売上はほぼ前年並みであった。 	
	タクシー運転手	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の景気動向については、持ち直し傾向ということが言われているが、当社の状況をみると、4～5月にかけて需要が非常に落ち込んでおり、大変厳しい。 	
	悪くなっている	美容室(経営者)	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・年度替わりの時期が過ぎ、停滞気味となっている。
企業動向 関連 (北海道)	良くなっている	建設業(従業員)	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道内の建築鉄骨加工業は新幹線関連工事等、数件の大型工事の影響で秋口まで仕事が埋まっており、新規工事を受ける余裕がなくなっている。
	やや良くなっている	食料品製造業(経営者)	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・大企業の景況感とは裏腹に、諸物価の値上がりにより、一般市民の生活必需品に対する節約志向が増している。
		金属製品製造業(役員)	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量や販売量がやや増えてきている。また、見積件数も微増ではあるが、増加傾向にある。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量の増加はもちろんのこと、これまで下落が続いていた単価もわずかながら回復してきた。
		コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・客先が製品の機能やニーズ解決を優先する傾向があり、価格は最後となってきている。ある程度は利益を確保できている。

変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量について、3か月前と比べて特に変化がない。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部の高額商品の好調に続き、家具インテリア業界にも上向きの動きが出てきた。円安の長期化は国内製品の価格競争力の向上に寄与する。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・オホーツク地区は異常低温と降雪の影響で、秋まき小麦の生育が遅れているほか、ばれいしょの植付けやビートの移植作業も2週間程度遅れており、収穫時期の作柄への不安が強まっている。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・建設関連は、公共工事の本格化や消費税増税前の住宅着工の増加などから堅調である。ただし、人件費の上昇や資材価格の値上がりで、収益が圧迫されている。個人消費は、高額品などが売れ始めているが、天候不順などで全体としては横ばいである。	
	司法書士	取引先の様子	・国の経済対策は都市部では浸透しているようにみられるが、地方都市やそれ以外の地域では景気回復の実感がなく、回復には相当の時間が必要である。	
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税などを控えて、建物新築のため土地取引が増えるとの予想もあるが、動きは鈍い。実需としての景気回復の兆しがみえない。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が回復する気配が一向にない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・レンタル出荷は増加傾向にあるが、レンタル料は上がっていない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・期待されていた公共工事の発注が、参議院議員選挙の影響なのか遅れ気味である。本格的な稼働が参議院議員選挙後に集中することが予想され、取引先も困惑している。消費税増税にともなう駆け込み需要もいまだ顕著には表れていない。	
	やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・桜の開花の遅れや天候不順により、消費需要の落ち込みがみられ、業界での受注量が減少した。円高や株価の乱高下で景気の動向に不安定があり、中小企業では景気が悪くなっている。
司法書士		取引先の様子	・土地の売買、建物の新築が相変わらず減少気味である。	
悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・今月は連休があり、当社及び客先の稼働日数が減少したこともあり、商品の売行きは激減した。	
雇用関連 (北海道)	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用のニーズが増えている。なかでも営業職の求人が増加傾向にある。雇用形態では、依然としてパート・派遣のニーズが高いが、契約社員での採用ニーズも高まっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・観光客が増えているためか、飲食店や小売店の販売が好調のようである。ただし、地元経済が回復している印象はなく、輸入コスト増による食料品や身の回り品の値上げの影響が懸念される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんどすべての業界で求人意欲が堅調である。特に建設業や運輸業は人手不足などで広告出稿頻度が上がっている。また、飲食店や生活関連サービス、小売などの個人消費関連の求人件数の多い状態が続いている。北海道に多いコールセンターの増員の動きもみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年を13.7%上回り、39か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年を12.7%上回り、39か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・小売業での求人の増加が目立った。チェーン展開の大手スーパーやコンビニの新規開店などがあり、各業種で増加した。建設業では建築分野で技術者のほか、職人や作業員の求人の増加がみられ、消費税増税を見越した前倒しの発注が増加しているとうかがえる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・住宅建設の動きが活発で、建設業や建設資材業者などの建設関連求人が増加している。また、観光シーズンに向けて、観光関連求人も増加している。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人倍率が少し上向いたが、実感できない。また、求人が増えても労働賃金に動きがないため、景気は変わらない。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	採用者数の動き	・型枠、鉄筋、とび、土工など、建設関連の求人増加に対して求職者が極端に少ない。特に技術や資格を持っている若年層の応募が厳しい状況にある。
	新聞社 [求人 広告] (担当者)	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比117%と今月も続伸した。ちなみに2009年5月期と比較すると、約2.2倍の売上となっており、特に非正規社員に限ってみれば、地域の雇用環境はこの4年間で劇的に改善されている。業種別にみると、環境衛生が前年の2倍強、医療、土建、不動産、加工・製造・卸、自動車が前年を30~50%上回った。
	職業安定所 (職 員)	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年を1.4%上回り、新規求職者数は前年を5.2%下回った。月間有効求人倍率は0.69倍となり、前年の0.64倍を0.05ポイント上回った。しかし、正社員求人の占める割合は47.4%と求職者と求人者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。
やや悪く なっている	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・今年に入ってから各業種とも急激に求人数を伸ばしてきたが、5月に入って急激に失速し始めた。
悪く なっている	—	—	—